

は べ も と じ ろ う ほ ん ご う ふ さ た ろ う 波部本次郎と本郷房太郎

丹波篠山の黒大豆栽培・300年の歴史

日本農業遺産認定

波部本次郎は、明治時代初期に在来の黒大豆の中から大粒のものを選び出し、「波部黒」と名付けて丹波篠山各地で栽培を勧めた人物で、9月号のVol.5で紹介しました。丹波篠山の黒大豆栽培を語る上で欠かせない功労者です。

今回、般若寺在住の^{おじまひろひさ}小島博久さんから「波部本次郎宛てに届いた手紙が自宅にある」との連絡を受け、その手紙を拝見しました。送り主は、本郷房太郎。こちらも丹波篠山出身の功労者ですが、皆さん、ご存じでしょうか。

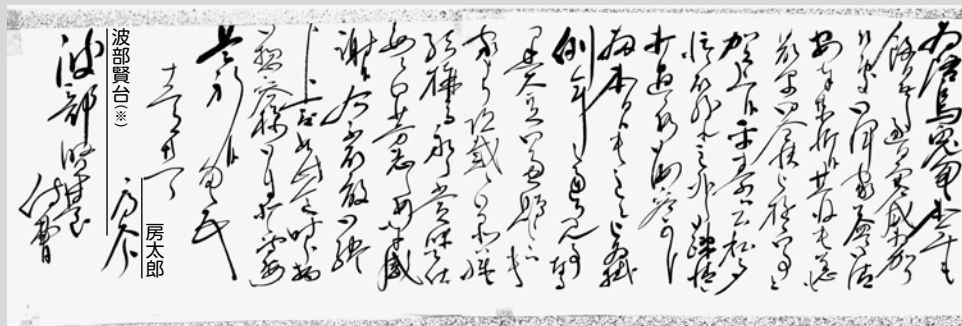
房太郎は、明治期から大正期にかけての軍人で、陸軍大将にまで昇進しました。歩兵第70連隊を誘致するなど、郷土の発展にも尽力しました。房太郎の死後、その功績を称え、住民の寄付によって建設されたのが旧篠山町立本郷図書館で、それが今の中央図書館や市民センター図書コーナーとなっています。

その手紙は、本次郎から黒大豆を贈ってもらったことへの礼状でした。残念ながら何年のことかは分かりませんが、日付は12月21日付。そこには、次のようなことが記されています。

—今年もあとわずかとなり、日増しに寒くなってきました。以前からのご病気も快癒されたとのことで、お祝い申し上げます。本日は、見事な黒大豆を贈っていただきました。貴方様から頂戴したものは特に立派で、これからおいしくいただきたく、ご厚志に感謝申し上げます。—

文面から、本次郎と房太郎が親しかったこと、波部家の黒大豆が大きいこと、房太郎が黒大豆を楽しみにしていることがうかがえます。小島さんは、「この手紙がどういう経緯でわが家にあるかは分からないが、2人に親交があったことはとても興味深い」と話されました。

日本農業遺産の認定がきっかけとなって、黒大豆や農業に関するさまざまなことが分かってきました。前回もお伝えしましたように、日本農業遺産にかかる皆さんの疑問や質問にもお答えしながら、本連載を続けます。「〇〇を見てみたい」「昔、〇〇はどうだったの？」など、知りたいことや疑問など、お気軽にご意見をお寄せください。



(※)賢台…目上の人に対する敬称